

【問合せ先】

令和2年6月18日
島根県病害虫防除所 担当：奈良井・澤村
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

令和2年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号

令和2年6月18日
島根県病害虫防除所

本県において、ツマジロクサヨトウ幼虫の被害が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ
- 2 学名 *Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)
- 3 作物名 未成熟トウモロコシ (スイートコーン)
- 4 発生経過

令和2年6月8日に県東部で栽培されている未成熟トウモロコシほ場において、本種と疑われる幼虫の食害(写真1、2)を発見し、捕獲した。その後、県西部の未成熟トウモロコシほ場においても、同様な幼虫と被害を確認した。

農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、6月15日に本県未発生 of ツマジロクサヨトウ幼虫であることが確認された。

なお、本県では令和元年10月16日に、東部地域に設置したフェロモントラップにおいて、本種雄成虫(写真3)を確認していたが、農作物の被害及び本種幼虫の寄生については未確認であった。

5 国内における発生状況

令和元年は、7月3日に鹿児島県で初めて確認された後、21府県の主に飼料用トウモロコシで発生が確認されている。令和2年は、これまで西日本を中心に15県の現地ほ場で幼虫の発生が確認されている。

6 形態及び特徴

- 1) 終齢幼虫は体長約40mmで、頭部複眼の網目模様と頭部縫合線に沿って淡色になるため、この部分が逆Y字状に見えることが特徴である(写真4)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。
- 2) 国内での報告で幼虫の寄生が確認された植物は飼料用トウモロコシ、未成熟トウモロコシ(スイートコーン)、飼料用ソルガム、サトウキビ等に限られるが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など広範囲の作物に寄生することが知られている。
- 3) 本種は、暖地に適した種であり、熱帯では年4~6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされている。

7 防除対策

- 1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努める。
- 2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに島根県病害虫防除所まで連絡する。
- 3) 現在、本種に対して登録のある薬剤はないが、県は、植物防疫法第29条第1項に基づき、下記のURLに示されている薬剤による防除指導を行う。

(農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」)

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

- 4) 薬剤散布が困難な場合は、被害作物を早期に刈り取るとともに、幼虫の分散を防ぐため、ほ場内での残渣のすき込みを行う。

8 連絡先

島根県病害虫防除所 (農業技術センター病虫科：0853-22-6772)

9 参考資料



写真1 スイートコーンの被害



写真2 ツマジロクサヨトウ幼虫



写真3 フェロモントラップに誘殺された
ツマジロクサヨトウ雄成虫
(令和元年10月)

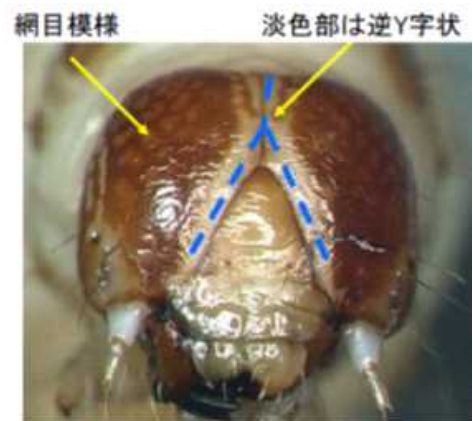


写真4 終齢幼虫頭部の特徴
植物防疫所資料より引用